インド，ガングワールおよびコトラ発電所納 29,840 kW (40,000 HP) 水車完成

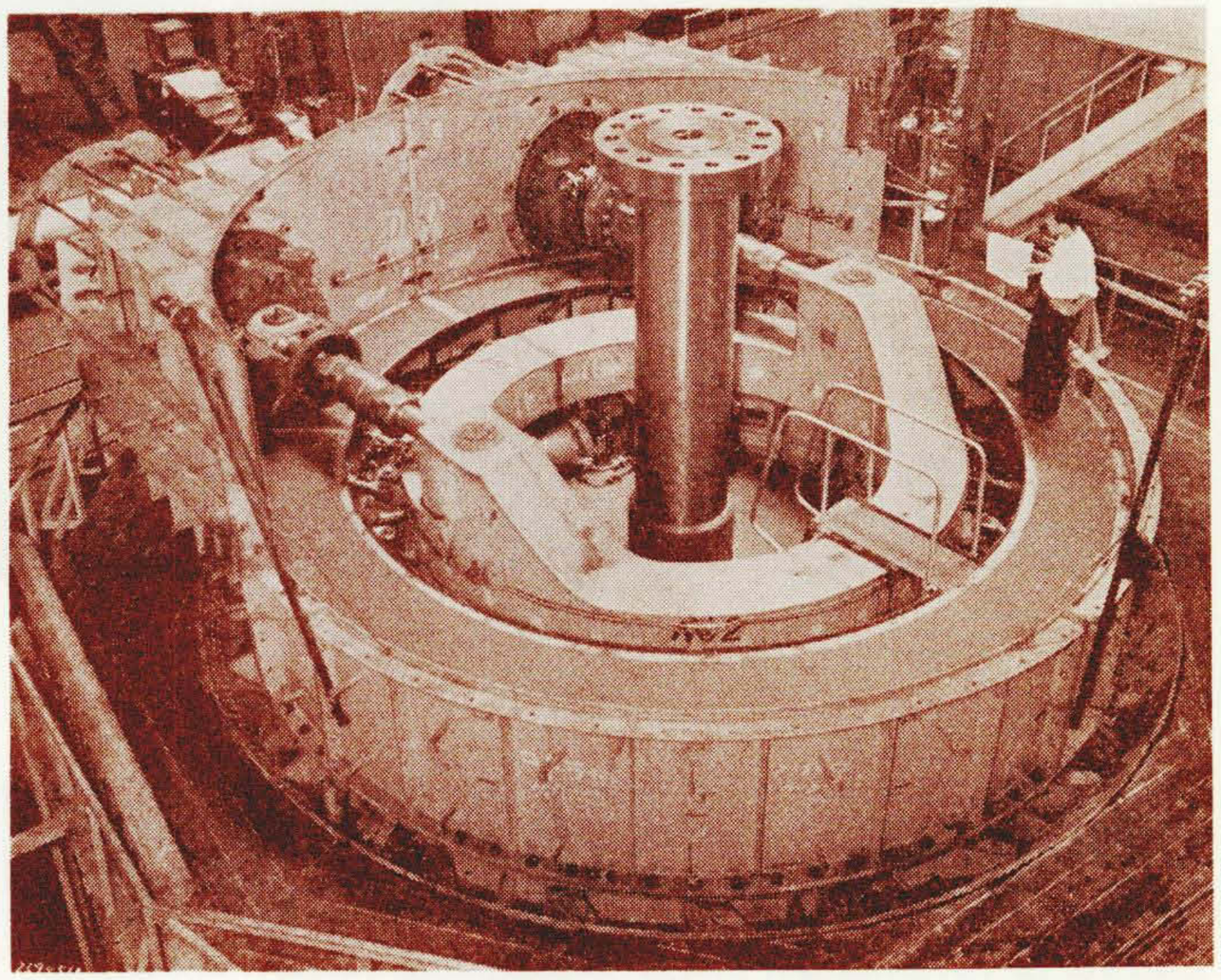
バークラ発電所用水車に引続き，インド政府より受注したガングワールおよびコトラ発電所用 29,840 kW (40,000 HP) プロペラ水車2台がこのほど完成した。

両発電所は目下建設中のバークラダムより8マイル下流のナンガルダムからハイデル水路に沿ってそれぞれ，18マイルの地点にある。この二つの発電所は1951年，同一仕様により建設された発電所で，現在両発電所ともボールドウィンリマ製 25,100 kW (33,500 HP) カプラン水車，ウェスチングハウス製 27,500 kVA 発電機それぞれ2台が運転中である。今回はこれらの発電所にそれぞれ1台増設されるものであるが，既設機とは若干異なりプロペラ水車が採用され，さらに出力は 29,840kW (40,000 HP) に増大された。これはすでにドラフトチューブが設置されていることなど比較的きびしい条件であったが，模型試験によりその性能は十分満足できるものであることが確認された。

仕様は次のとおりである。

出　力..... 29,840 kW (40,000 HP)
流　量..... 115.55 m^3/s (4,080 ft^3/s)
落　差.....29.87 m (98 ft)
回転数..... 167 rpm

構造上のおもなる特長は回転部分を除き，全面的に熔接構造を採用したことで，構造設計には模型による応力測定などを行い，確実なものとした。ランナは加工輸送の観点より，ボス，ブレードを分割し，組立構造とした。主軸受は冷却器別置の強制循環方式を採用した。主軸部漏水に対しては排水ポンプ2台を設け，軸受部への浸水には万全を期している。



第1図　29,840 kW (40,000 HP) 水車

ラ・ベンタ納 7,500 kVA 発電機完成

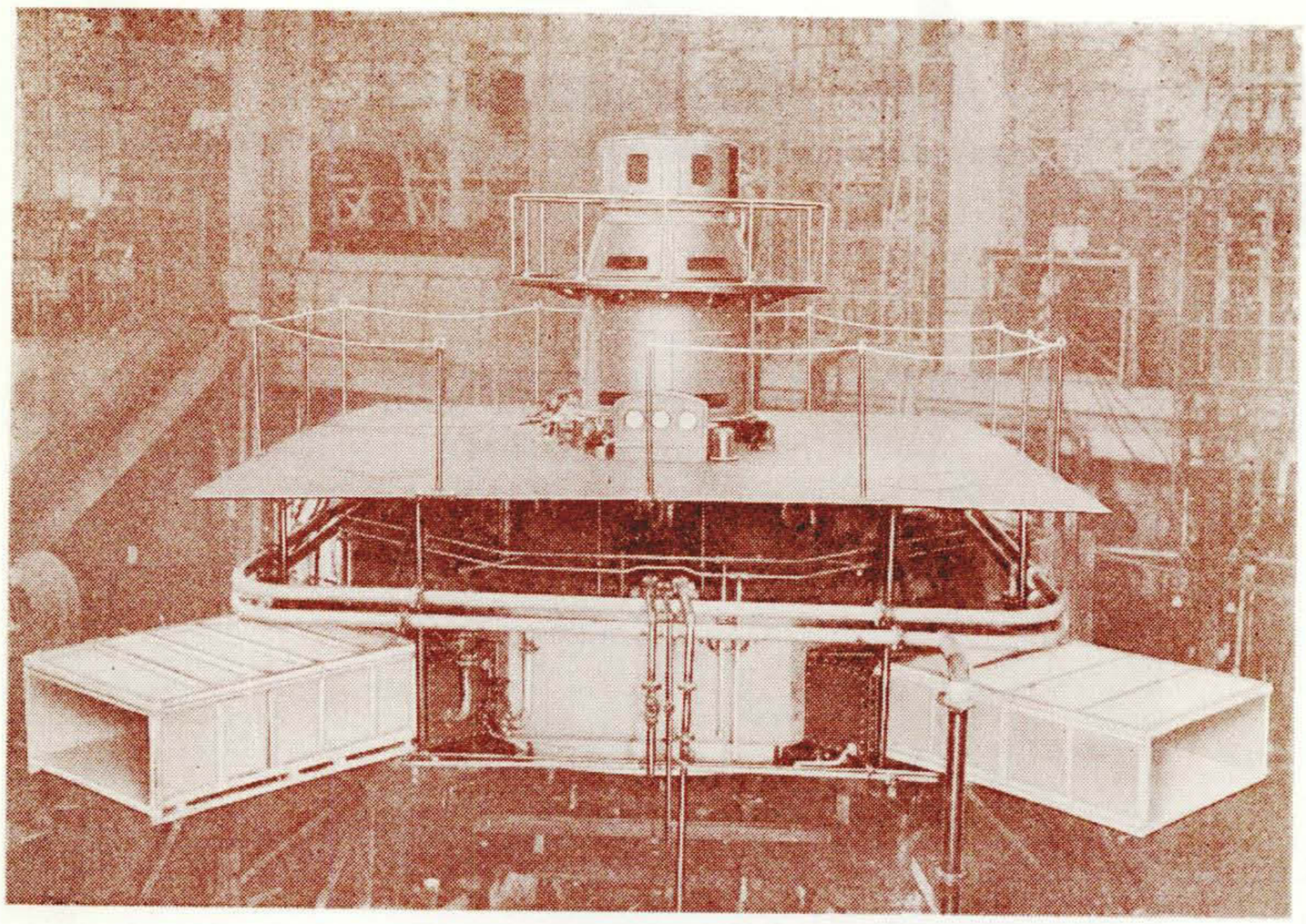
メキシコ向け第二号発電機として，日立製作所で製作をすすめてきた，メキシコ，ラ・ベンタ発電所納交流発電機2台がこのほど完成した。

この発電機は，定格容量 7,500 kVA (温度上昇 60°C)，回転数 300 rpm で，さきに日立製作所がメキシコに納入した，サナロナ発電所納めの 8,750 kVA (温度上昇 60°C) 発電機とほぼにた機械である。発電機は四角のコンクリートピット内にすえ付けられ，床面上には励磁機のみが出る形となる。ピット内の空間を有効に利用するため，固定子枠は八角形とし，四隅に4個の空気冷却器を配している。また下部の案内軸受は，潤滑油を冷却するための水冷蛇管を省略し，完全な自冷式軸受として配管を簡単にするなど，種々合理的な設計を採用した。

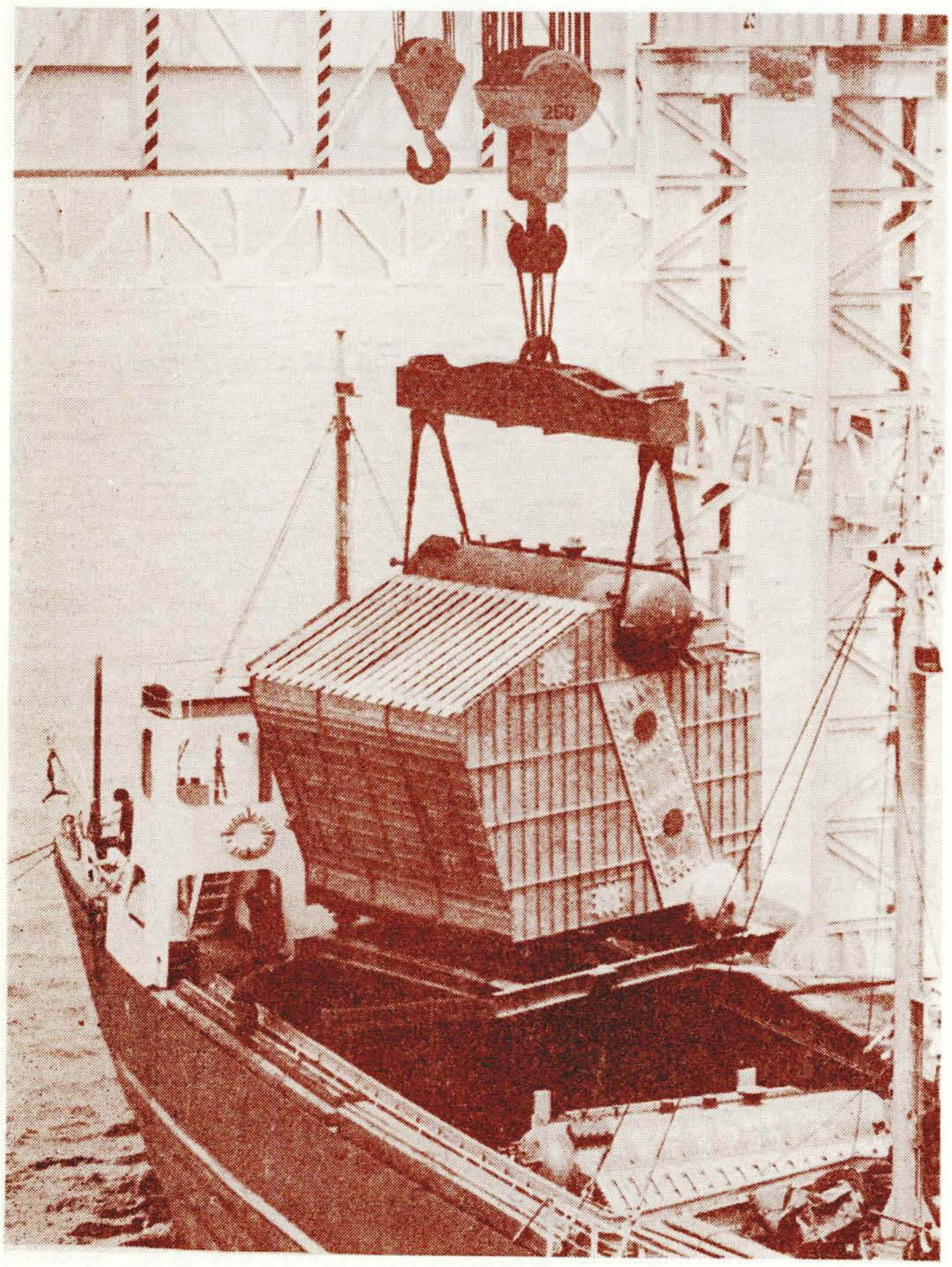
この発電機は，フランス，ネルピック社製の水車に直結されて運転されるもので仕様は下記である。

発電機仕様
台　　数..... 2台
容　　量.....7,500 kVA (温度上昇 60°C)
8,625 kVA (温度上昇 80°C)

日 立 ニ ュ ー ス



第2図　7,500 kVA 交 流 発 電 機



第3図　“たかなみ”用 主 ボ イ ラ

電　　圧……6,900 V
回 転 数……300 rpm
周 波 数……60～
力　　率……80%

防衛庁納甲型警備艦 “たかなみ” 用主ボイラ完成

日立製作所では防衛庁納甲型警備艦“たかなみ”用主ボイラを受注し，鋭意製作中であったがこのほど呉分工場にて陸上組立を完成し，目下三井造船において艦内艤装中である。

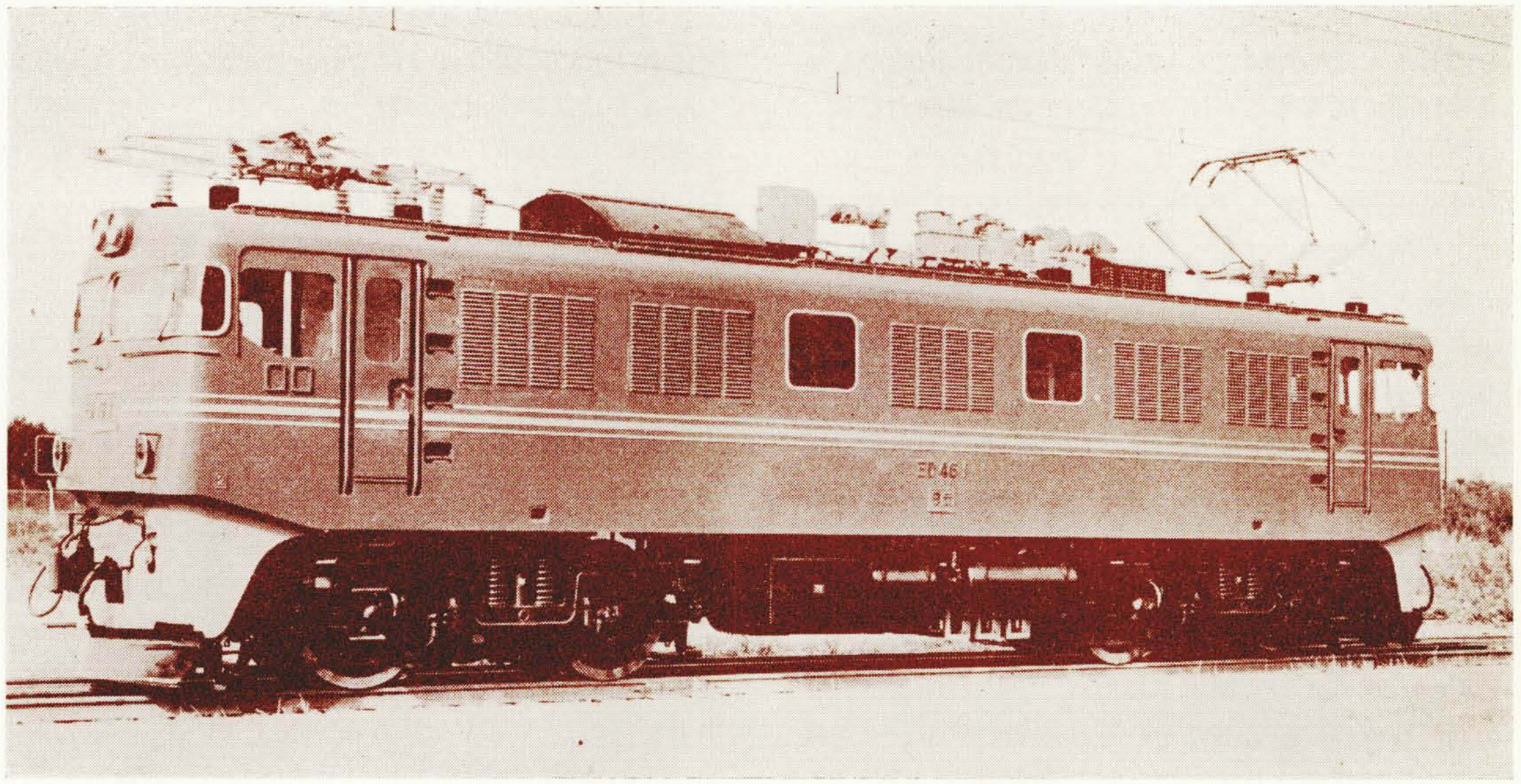
この主ボイラは艦艇用としての使命を十分果すために下記の点に特に重点をおいて計画されている。

（1）　スペースファクターがよく重量が軽いこと
（2）　信頼性が高く堅牢であること
（3）　効率が高く経済的であること
（4）　操作，保守，点検が容易であること

すなわち主ボイラはインテグラルファーネス形を採用し，水冷壁にはクロームオアを塗って燃焼を安定，良好ならしめ，節炭器には小形フィンをつけて熱吸収率を増大させている。またケーシングには不銹鋼板を使用して軽量にし，ケーシングの外周全体を空気箱で囲いガスもれの皆無をはかるなど，数多くの考慮が払われている。本年11月の海上運転に際しては“はるかぜ”“しきなみ”同様大いにその真価を発揮するものと期待されている。

第3図は陸上組立を完了し，呉分工場より海上輸送のための搬出模様である。仕様を下記に概述する。

数　　量……2 缶
最大蒸発量……75,000 kg/h
蒸気圧力（過熱器出口にて）
……30 kg/cm²g
蒸気温度（過熱器出口にて）……400°C
給 水 温 度……110°C
燃 焼 方 式……重油専焼
通 風 方 式……強圧通風



第4図　ED46形交直両用電気機関車

ED46形交直両用電気機関車完成

国鉄が常磐線で使用する予定で試作したED46形エクサイトロン水銀整流器式交直両用電気機関車が水戸工場で完成した。

常磐線は現在取手までが直流 1,500 V で電化されて，電車運転を行っているので，取手から先が交流 20kV で電化される。この交直切換えは，取手，藤代間走行中に車上から切換える方式をとっている。

この機関車のおもな特長は次のとおりである。

（1） 常磐線級の幹線では従来直流電気機関車6動軸のものが必要とされているが，本機関車ではEF級と同性能でB-B，64 t におさめた。そのためには電気部分はもちろん，車体，台車まで特別の軽量化設計を行っている。

（2） 台車の中央に1個の出力大きい主電動機を取付け，歯車装置を介して前後の2動軸を同時に駆動する，1台車1電動機式を採用している。この方式は粘着引張力を増す効果が大きいので，この機関車の成績によっては，今後広く使用される可能性が多い。

（3） 交流区間運転時は，ED70形やED71形と同じく水銀整流器式機関車として働き，直流区間では架線から直流 1,500 V を受けるので，従来の直流機関車となんら異なるところがなく，直並列制御，抵抗制御，弱界磁制御を行って，速度制御を行っている。
このため交流運転の際でも，変圧器のタップ切換えあるいは水銀整流器の位相制御は行わない。

（4） 交直切換は走行中に切換スイッチを手動操作することによって主回路を遮断後，交直切換器，交直転換器などが自動的に転換して行われるが，手動操作を忘れた場合，あるいは回路が正常な方向に切換えられなかった場合などは遮断器が投入されないようになっており，さらに万一回路が構成されたまま異電圧区間に侵入した場合には，直流に対しては主ヒューズ，交流に対しては ABB で遮断されるようになっている。

（5） 客車用暖房としては電気式が採用されるので，この電源は，交流区間運転中は主変圧器からとっているが，直流区間運転中は，水銀整流器をインバータとして運転することにより交流を得ている。

おもなる仕様は次のとおりである。

電気方式……単相交流 50∿，20 kV および直流 1,500 V
運転整備重量……64 t
連続定格出力……1,400 kW
最高運転速度……110 km/h
主電動機……700 kW 2台
水銀整流器……風冷封じ切 エクサイトロン式
連続定格 1,550 kW 1,500 V
4台グループ結線，全波整流
主変圧器……送油風冷式 密封形
ラジアルコアータイプ
1,560/2,170/20 kVA
制御方式……非重連非自動，直並列抵抗制御，および界磁制御，電磁空気単位スイッチ式

運輸省第四港湾建設局向 低位形電気推進自航バケット式 しゅんせつ船用電気設備一式受注

日立製作所は今回運輸省第四港湾建設局向低位形電気推進自航バケット式しゅんせつ船用電気設備一式を日本

鋼管株式会社より受注した。

このしゅんせつ船は主として港湾の航路，泊地のしゅんせつ作業に従事する高能率なもので特に掘削力を強力にし硬土質のしゅんせつに適したものである。

直流電源装置としてディーゼル発電機を有し直流電動機により推進器およびしゅんせつ機を駆動し諸操作はすべて電動としている。

主発電機（直流）2基はくし形に共通軸上に配置され1台のディーゼル機関により駆動される。第1主発電機（450 kW）はワードレオナード式制御により推進電動機（400 kW）または切替えてバケットライン電動機（400 kW）に給電する。第2主発電機（200 kW）は航海時の補機，電灯などの電源またはしゅんせつ時の甲板機械，機関室補機，電灯などの電源ならびにワードレオナード制御系統の電源として使用される。

補助発電機(直流) 2基はそれぞれ別個のディーゼル機関により直結駆動される。第一補助発電機(75 kW)は主原動機修理時においてラダーの巻上そのほか甲板機械の電源として使用することを目的とする外航海時第2主発電機の予備として使用される。第二補助発電機(20 kW)は碇泊中の電源として使用される。

制御配電盤は鋼板製キュウビクル形として次のものより構成される。

主発電機盤	2面
推進用電動機盤	1面
バケットライン用電動機盤	1面
励磁機盤	1面
補助発電機盤	2面
操舵機盤	1面
陸上電源受電盤	1面
交流電源盤	1面

推進電動機は制御配電盤で制御できるほかに操舵室においても遠隔制御するようになっている。

しゅんせつ用電動機として次のものがあり，しゅんせつ作業時には操縦室に設けられた特殊机形操縦盤より遠隔制御するようになっている。これらの電動機用起動器はキュービクル形の集合電磁接触器盤にしてある。

ラダー巻揚機用	90 kW	1台
ヘッドライン揚錨機用	60 kW	1台
船首右舷揚錨機用	40 kW	1台
船首左舷揚錨機用	40 kW	1台
船尾揚錨機用	40 kW	1台
ベルトコンベヤ用	25 kW	2台
コンベアフレーム巻上機用	7.5 kW	2台
ダンパ開閉用	3 kW	1台
キャッスタン用	5 kW	4台

一般動力装置のポンプ用，通風機用，操舵機用，空気圧縮機用電動機として 11 kW より 1.1 kW まで10台があり，また，交流電源用の電動発電機もある。

今回の電気推進方式はわが国でも珍しい方式であり，関係者は大いに張り切り，これが完成に努力している。

最近ドレッジャポンプ形，ジッパ形，バケット形ともに次第に大容量化しており，港湾の拡張，埋立工事の活発化に伴い大形船の年間十数隻以上の建設計画があり，今回のものはこのモデルとなるものとして大いに注目されている。

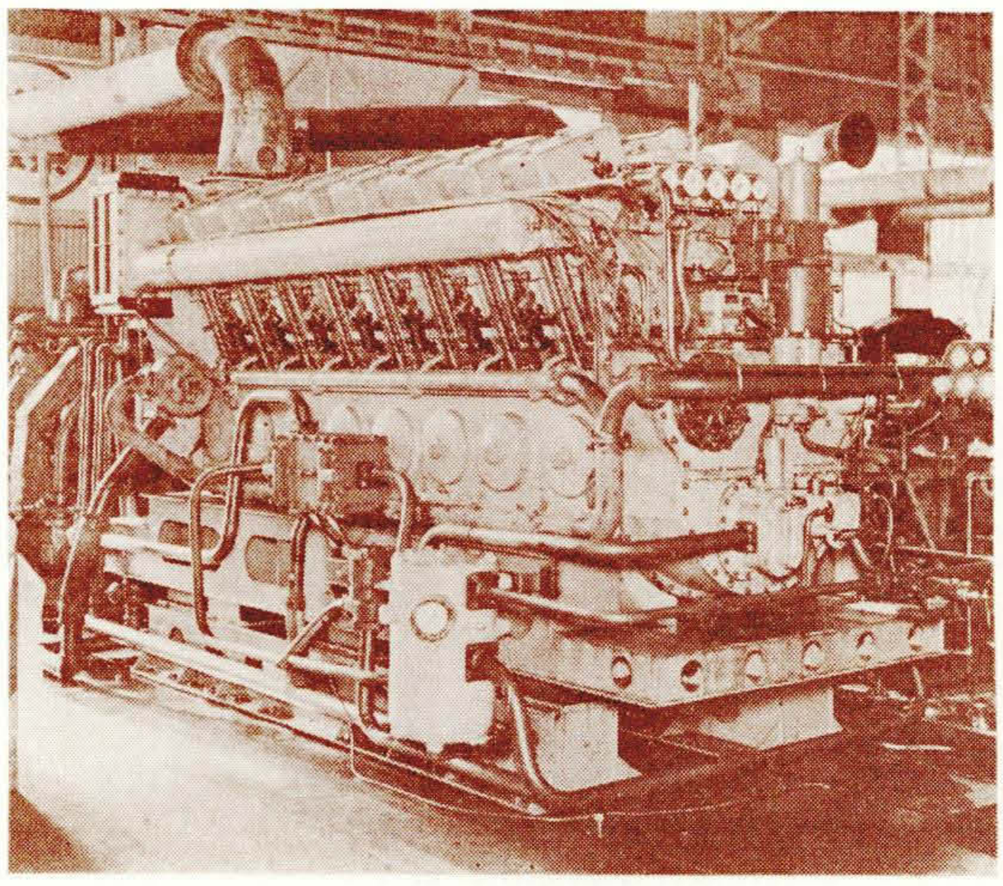
試作日立-M・A・N V8V 22/30m.A.u.L 形ディーゼル機関完成

現在日本国有鉄道常磐線で活躍しているDF90形ディーゼル電気機関車に搭載している主機はV8V形ディーゼル機関であるが，この機関に過給空気冷却器を設けて出力を高めた V8V 22/30 m.A.u.L 形 ディーゼル機関が，このほど日立製作所笠戸工場において完成した。

この機関は日立がドイツM・A・N社との技術提携に基いて製作している機関の中で，車両用としてはわが国で出力最大のものであり，かつ全部品に国産品を使用した日立-M・A・N 機関という点で注目すべきものであり将来の発展が大いに期待されるものである。

主要要目

気筒数——シリンダ径×行程...16—220mm×300mm
連続定格出力/回転数..... 1,900PS/900 rpm
一時間定格出力/回転数..... 2,080PS/1,000 rpm
全長（過給機を含む).....4,235 mm
全　　幅..... 1,630 mm
全高(すえ付面からシリンダヘッド上面まで)
..... 1,550 mm
重量（乾燥重量）..... 9,300 kg



第5図　日立-M・A・N V8V 22/30 m.A.u.L 形ディーゼル機関

日 立 ニ ュ ー ス

吐出量わが国最大の歯車ポンプ完成

日立製作所亀有工場では，このほどわが国最大の吐出量を誇る歯車ポンプ（サイン曲線歯形を使用）を完成した。

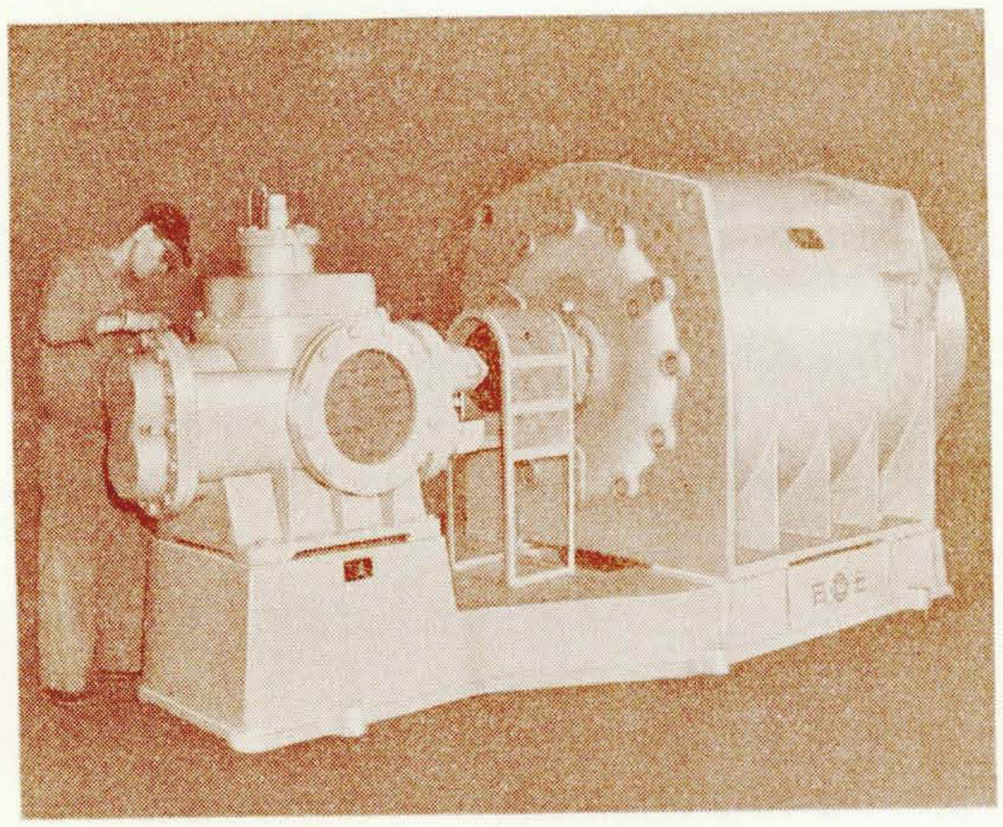
本機は出光興産株式会社徳山製油所に納入され，重油をタンクからタンカーへ移送するのに使用されるもので，次のような駆動，被動合わせて8個の歯車を4列にかみ合わせており，その全幅はニードルローラベアリングを含め，856 mm という大きなものである。

おもな特長

（1） サイン曲線歯形を採用したことにより効率が高く，キャビテーションが起りにくい。また歯車の組合わせ方，ケーシング内壁の特殊溝などにより吐出圧力，吐出量の脈動がほとんどなく静粛に運転できる。
（2） 歯車両端に球面ローラ軸受を，中間にニードルローラベアリングを使用し，歯車のかみ合わせを円滑にし耐久力をもたせた。
（3） 軸受の潤滑は自己潤滑式で，しかも給油量が調節できる構造になっている。
（4） 安全弁は確実に安定した状態で作動するよう特殊な設計となっている。
（5） 接手には歯車カップリングを使用した。

おもな仕様

形　　式	GR CH
吸込口径	300 mm
吐出口径	300 mm
吐出量	500 m^3/h
全圧力	5 kg/cm^2
回転数	700 rpm
電動機	150 kW 10 p 60～
取扱油 重油	常温～80°C
粘度	50～1,000 cp
台数	2 台



第6図　500 m^3/h, 5 kg/cm^2, 150 kW 歯車ポンプ

強力電気レジノイドサンダ発売

重研削用 180 mm RUS-BRH 形

日立製作所では各種の電動工具を製作しており，そのうち電気レジノイドサンダとして片手でも使える 100 mm 用から 150 mm 用，180 mm 用までを市販して各界のご好評をえているが，このたび従来よりさらに研削能率のよくなった重研削形 180mm RUS-BRH 形を市販した。

特長と仕様は次のとおり

特　　長

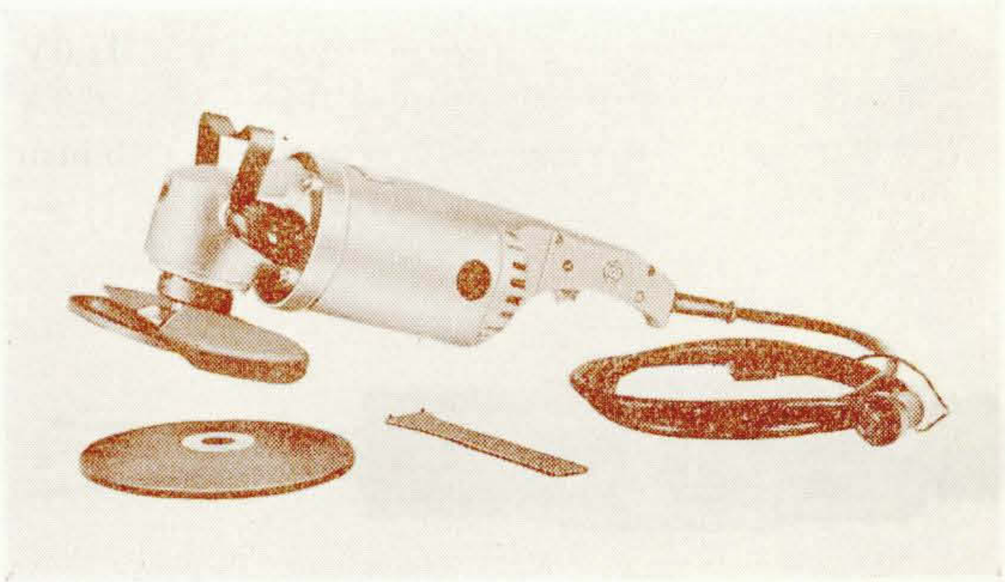
（1） バリ取りおよび熔接部の研削など在来品より短い時間で多くけずれる
（2） 切れ味よく目づまりしない補強布入，レジノイドホイールで，在来品より寿命が長い
（3） 故障の少ない動作の確実なトリッガースイッチ付
（4） 新案のハンガー兼用定置台
（5） ラバパッドを取付けサンデングデスクの使用も可能

仕　　様

能　　力	レジノイドホイル径 180 mm
電　　源	交直両用
電　　圧	100 V 用，200 V 用
出　　力	約 500W
無負荷回転数	5,500 rpm
全負荷電流	9 A（100 V） 4.5 A（200 V）
重　　量	8.8 kg

標準付属品

レジノイドホイル	2 枚（厚さ6 mm）
スパナ	1 個
予備カーボンブラシ	2 個
アースクリップ付キャブタイヤコード	2.5 m 付



第7図　180 mm RUS-BRH 形レジノイドサンダ

日 立 ニ ュ ー ス

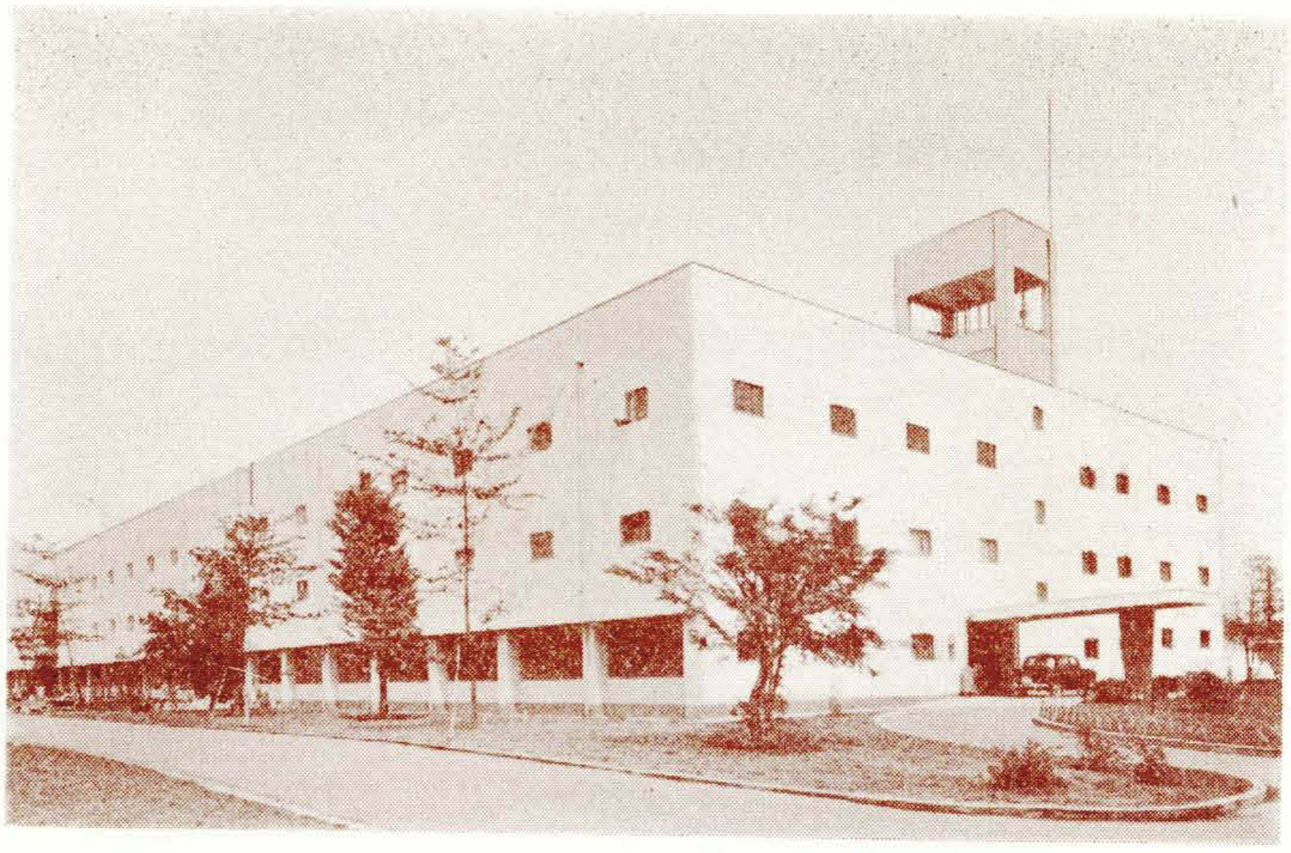
トランジスタ生産工場増築なる

電子工業のめざましい発展に伴いトランジスタの需要も急激に伸び，各メーカーとも増産におおわらわである。

日立製作所ではさきに完成した都下，国分寺町のトランジスタ研究所を大々的に拡張し，名称を武蔵工場と改め落成式も去る8月8日に行い量産にさらに拍車をかけることになった。

この増築により，今後の生産数量は月産約400万個となり飛躍的に増加する。

武蔵工場の規模は敷地約 100,000 m² 延坪約 18,000 m² となり国家の基幹産業であるエレクトロニクスの分野へ文字どおり大きく前進することになった。



第8図　完成した日立製作所武蔵工場

診察用3極X線管 DOG-105 完成

日立製作所茂原工場では格子制御方式の診察用X線管 DOG–105 を完成した。

この DOG–105 は陰極に格子電極を付加した小形油浸式X線管で，X線管電流を格子により制御することができる。

DOG–105 を診察用コンデンサ式X線装置と組合わせて使用することにより，ごく短時間のX線撮影が可能になり，特に血液循環系の撮影などに好適な品種である。

概略の定格は次のとおりである。

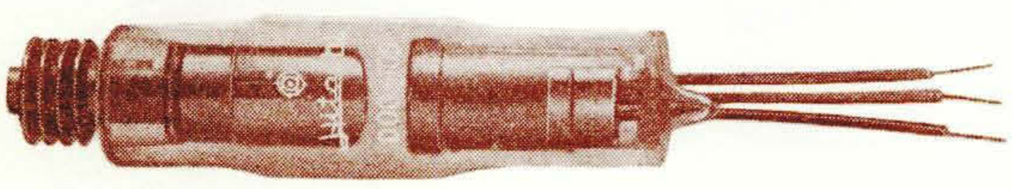
概　略　定　格

外形寸法……全長 205±5 mm（ラジェータつき）
最大部直径 51±1 mm

フィラメント

電　圧……4.5～11.0V
電　流……3.5～ 6.0A

実効焦点 ……5×5 mm



第9図　診察用3極X線管 DOG–105

定　格

最大使用電圧
　変圧器式 ……100 kVp
　コンデンサ式 ……80 kVp
最大逆耐電圧 ……100 kVp
連続負荷 ……100 kVp, 3 mA
短時間負荷…… 全波70 kVp, 180 mA, 1秒
管電流遮断特性 ……90 kVp でグリッド電圧が 2,000 V 以下

高感度テレビチューナ用受信管 6 R-HH 2, 6 M-HH 3 完成

日立製作所茂原工場では高感度テレビチューナ用受信管として，すでに量産している 6R–HH1, 4R–HH2, 5M–HH3 の姉妹品 6R–HH2, 6M–HH3 を完成した。

6R–HH2 は高周波カスコード増幅管でその特長は

（1） 相互コンダクタンスが従来の 6BQ7-A に比して約30%高くなっているため約2dB利得が上ること。

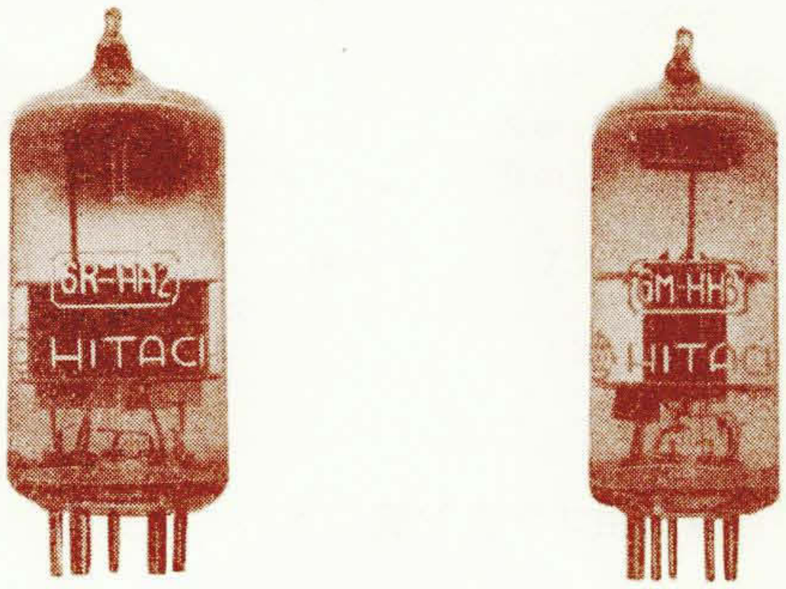
（2） 電極間静電容量が 6BQ–7A とほぼ同じなので，チューナを改造することなく交換使用することができる（ただしこの場合，セットによってはプレート電流が流れすぎることがあるので，1kΩ くらいの抵抗をチューナのB電源回路に付加して無信号時チューナのB電圧が 180V くらいになるようにする必要がある）こと。

（3） 相互コンダクタンス特性が比較的ゆるやかなので，AGCの調整が簡単であること。

などである。

次に 6M–HH3 は局部発振および周波数変換管でその特長は，

日 立 ニ ュ ー ス



第10図　高感度テレビチューナ用受信管
左 6R-HH2，右 6M-HH3

（1） 従来の 6J6 に比し相互コンダクタンスが約40%高くなっているため，変換利得が約 2dB 高くなること。

2） 電極間静電容量が 6J6 とほぼ同じ（入力容量が 0.2 pF くらいふえる）なのでそのままさしかえて使用することができる（ただし一部のセットはそのままさしかえたのでは12チャンネルで発振しなくなることがあるかもしれない）こと。

などである。

この 6R-HH2, 6M-HH3 の2種を使用することにより，6BQ-7A および 6J6 を使用したセットに比しセットの利得は 4～6dB 向上し，信号対雑音比は 2～3dB 向上する。

6R-HH2, 6M-HH3 概略の定格は次のとおりである。

6R-HH2 概略定格

外形寸法	全長	56 mm max.
	最大部直径	22.2 mm max.
口金		ミニアチュアボタン9ピン
陰極		傍熱形酸化物塗布
ヒータ電圧		6.3 V
ヒータ電流		0.4 A
標準特性（各ユニットごと）		
プレート電圧		90 V dc
グリッドバイアス		−1 V dc
プレート電流		8.5 mA dc
相互コンダクタンス		8,000 μ℧
増幅率		36

6M-HH3 概略定格

外形寸法	全長	54 mm max.
	最大部直径	19 mm max.
口金		ミニアチュアボタン7ピン
陰極		傍熱形酸化物塗布
ヒータ電圧		6.3 V
ヒータ電流		0.45 A
標準特性（各ユニットごと）		
プレート電圧		100 V dc
グリッドバイアス		−1 V dc
プレート電流		11 mA dc
相互コンダクタンス		7,500 μ℧
増幅率		38

ダンパ用高真空半波整流管 6G-K17 完成

日立製作所茂原工場ではテレビジョン受像機のダンパ用傍熱形高真空半波整流管 6G-K17 を完成した。

この 6G-K17 は陽極尖頭逆耐電圧 4,500V（絶対最大値），陽極直流電流 175mA の最大定格を有しており，広角度偏向の受像管をもちいたトランスつき受像機のダンパ管として好適な品種である。

6G-K17 は従来品種 6AX4-GT の代りにそのまま差換えて使用することができ，かつ一層寿命が長くなることが期待できる。

6G-K17 を 6AX4-GT と比較すると次のような特長がある。

（1） 陽極特性

パービアンスが高く，同じ陽極電圧において2倍の陽極電流が流れる。したがって同じ陽極電流に対する管内電圧降下は約60%にさがる。

（2） 最大定格

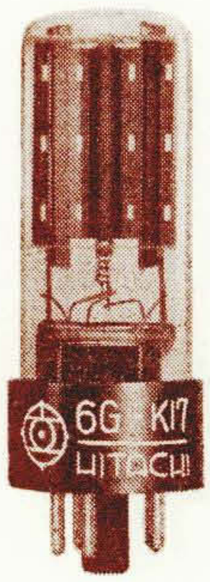
陽極電流は尖頭値，直流値ともに 1.4 倍まで流すことができる。耐圧もP-K間，H-K間ともに 100V 高い。

（3） 構造

カソード，プレートともに面積が大きくなっており，熱的，電気的に高い定格に十分耐えることができる。

などである。

概略の定格は次のとおりである。



第11図
ダンパ用高真空半波
整流管 6G-K17

日 立 ニ ュ ー ス

概 略 定 格

電気的定格
　陰　　極……傍熱形酸化物塗布
　　ヒータ電圧…… 6.3 V
　　ヒータ電流…… 1.3 A
機械的定格
　使用位置……任　意
　全　　長…… 100 mm max.
　最大部直径……34 mm max.
　バ　ル　ブ…… T-29
　口　　金……B5-85 または B6-60
最大定格（特記以外は設計中心値，走査線525本，毎秒像数30枚の標準方式の場合）
　陽極尖頭逆電圧（絶対最大値）（注1）...4,500V max.
　陽極電流
　　尖　頭　値…… 1,050 mA max.
　　直　流　値…… 175 mA max.
　ヒータ陰極間尖頭電圧
　　ヒータ負の場合（絶対最大値）...4,500V（注2）max.
　　ヒータ正の場合……300V（注3）max.
　注1：電圧パルスの持続時間は水平走査期間の15%をこえてはならない。標準方式の場合，この時間は10 μss である。
　注2：直流分は900Vをこえてはならない。
　注3：直流分は100Vをこえてはならない。

カラーテレビ用傍熱形 高真空半波整流管 3A3 完成

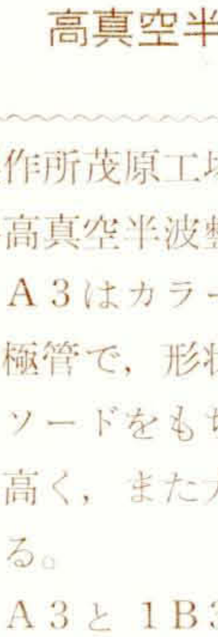
日立製作所茂原工場ではカラーテレビ用オクタルベース傍熱形高真空半波整流管３Ａ３を完成した。

この３Ａ３はカラーテレビの高圧整流用に設計された傍熱形２極管で，形状は１Ｂ3-GTとほぼ同等であるが，傍熱形カソードをもちいているので１Ｂ3-GTよりも耐逆電圧が高く，また大きな陽極電流を安定にとりだすことができる。

なお３Ａ３と１Ｂ3-GTの定格を比較すると次のようになる。

外形寸法	3A3	1B3-GT
全長 (mm max.)	105	105
最大部直径 (mm max.)	32.4	32.4
口金	オクタルベース	オクタルベース
ヒータ電圧（V）	3.15	1.25
ヒータ電流（A）	0.22	0.2
耐逆電圧*(kV)	30	26
最大陽極電流*(mA)	80	50
平均陽極電流*(mA)	1.5	0.5
Ib＝7 mAでの管内電圧降下（V）	100	100

＊フライバックトランスを使用し，走査線数525本，毎秒像数30枚の標準方式による場合。



第12図
カラーテレビ用傍熱形高真空半波整流管 3A3

観測用ブラウン管 3WP- 完成

日立製作所茂原工場では一般観測用ブラウン管3WP-を完成した。

この3WP-は蛍光面直径76 mmの静電集束，静電偏向フラットフェースの観測用ブラウン管である。

現在76 mm級の観測用ブラウン管では3KP1が一般に使用されているが，3WP-の偏向感度は3KP1にくらべてX軸で約1.3倍，Y軸で約1.4倍と高感度になっている。

また従来偏向感度の良い球におこりがちな偏向板のカカリ（偏向の際，電子ビームが偏向板にあたり，そのかげが蛍光面にあらわれること）がなく蛍光面の全域を使用することができる。

なお3WP-の蛍光膜の種類としては一般観測用のP1，残光観測用のP2，P7，写真撮影用のP11と４種を製作している。すなわち3WP1，3WP2，3WP7および3WP11である。

概略の定格は次のとおりである。

概 略 定 格

外形寸法 ……全　　長　292±6 mm
　　最大部直径　76±2 mm
口　　金……デュオディカル12脚
　ヒータ電圧 ……6.3 V
　ヒータ電流 ……0.6 A
最大定格
　第２陽極電圧 ……2,500 Vdc
　第１陽極電圧 ……1,000 Vdc
　第１格子電圧 ……−200 Vdc
使用例
　第２陽極電圧 ……1,500 Vdc
　第１陽極電圧 ……247～465 Vdc
　第１格子電圧 ……−45～−75 Vdc
　X軸偏向率 ……24.4～29.9 V/cm
　Y軸偏向率 ……16.8～20.7 V/cm

第13図　観測用ブラウン管 3WP1

日立ニュース

14形超高感度テレビ“シルビア” FY-440 発売

日立製作所からこのほど14形超高感度遠距離用の家庭向テレビ“シルビア”クラスの新形“シルビア”FY-440が発売された。

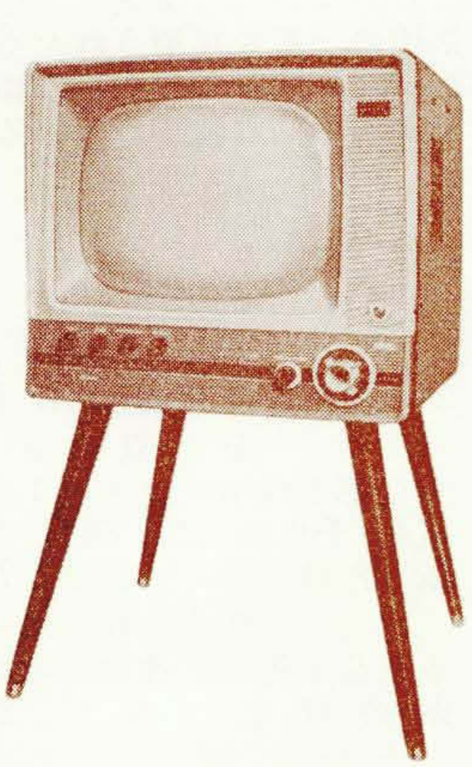
日立製作所では昨年末以来「感度は200%」のキャッチフレーズで，全機種にわたって超高感度真空管日立HHシリーズを採用してきたが，本機にも日立4R-HH2および5M-HH3の2本を採用して極微電界地域でも驚くほどハッキリ映るという性能をもたせている。

本機はいま好評発売中の“シルビア”FY-450の姉妹品であるが，さらに改良されている点は，スイッチを入れるたびに音量調節を必要としないワンタッチスイッチシステムの採用，チャンネルツマミを豪華な大形とし，より見やすいチャンネルインジケータに改良したことで，そのほか，独自のハイファイ前面音響方式“シネラミックサウンド”システム，ボリューム式トーンコントロール，イヤホーンつき，放送局切換えもできるリモコン装置（CW-30）の取付け可能など，日立テレビ共通の特長を備えている。

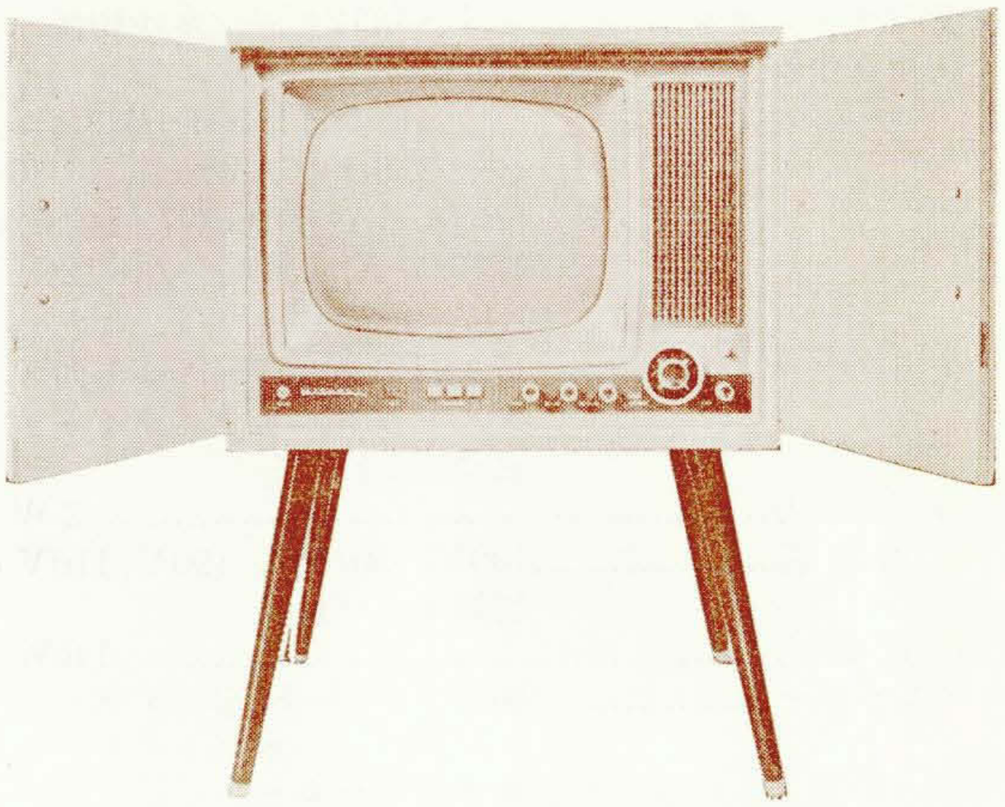
価格はイヤホーン1個，脚つき，リモコン別で，現金正価61,000円，月賦正価64,400円(12箇月の場合)である。リモコンCW-30は別売でイヤホーン2個つき現金正価3,200円。

規　格

受信チャンネル	1～12チャンネル
使用真空管	16球（ブラウン管を含む）
使用ブラウン管	日立14RP4A（S）（メタルバック90度偏向　ネオ・ブライト・ビジョン）
音声出力	1.5 W
使用電源・電力	100 V　50/60 c/s（110 V切換えつき）115 W
スピーカー	16センチ Hi-Fi 形スピーカー
外形寸法・重量	幅46 cm　高さ44 cm（脚付76 cm）奥行 42 cm　約 21 kg



第14図　14形超高感度テレビ“シルビア” FY-440



第15図　全放連形17形超高感度遠距離用テレビ“ジュリエット” SY-330RD

デラックスな全放連形教育用テレビ“ジュリエット” SY-330RD 発売

このほど第5回全放連形教育用テレビとして選定された17形超高感度遠距離用の“ジュリエット”SY-330RD（選定番号 102）が発売された。

本機はさきの第4回全放連形テレビ“ジュリエット”SY-330D と一見にているが，デザインとともに性能は大々的にデラックス化されて，レコードプレヤーやFMチューナ用の端子つき，便利なワンタッチ・スイッチ，イヤホーンジャック2個つきとなり，またチャンネルツマミは大形の豪華なデザインで，チャンネル数字が大きく見やすくなっている。

スピーカーは日立製作所自慢のダブルコーンスピーカーで広い音域にわたって自然な正しいハイファイ音が得られる。

そのほか，超高感度真空管，3割明るいブラウン管，チャンネル切換えもできるリモコン CW-30 取付可能など日立テレビ全機種に採用の高度な機能を備えている。

価格は，イヤホーン1個および脚つき，リモコン別で，教育用特別免税価格の 60,000 円（リモコン CW-30 は別売で現金正価 3,200 円イヤホーン2個つき）である。

なお従来全放連形テレビは17形に限られていたが今回から新たに大形の21形が加えられ全放連あっせん機種として“マリアンヌ”TY-270（教育用特別免税価格 85,000 円）が用意されている。

規　格

形名	“ジュリエット”SY-330RD（全放連選定番号 102）
品種	17形超高感度遠距離用コンソレット形（脚取りはずし可能）

日 立 ニ ュ ー ス

受信チャンネル……第1～第12チャンネル切換
使用真空管……16球（ブラウン管とも）
日立 4R-HH2, 5M-HH3, 3CB6×2, 5U8, 6AW8-A, 3AU6 6BN8, 5AQ5, 6CG7, 6CS7, 12BH7-A, 12DQ6-A, 12G-K17, 1X2-B
使用ブラウン管……17AVP4A（17形90度偏向メタルバック，ネオブライト・ビジョン）
音声出力……2W
使用電源……100V 50/60～（90V, 110V 切換タップ付）
消費電力……140W
スピーカー……16センチ Hi-Fi 形（ダブルコーン）パーマネントダイナミックスピーカー
アンテナ入力インピーダンス……300オーム 平衡形
外形寸法……幅 64cm 高さ 50cm（脚付 83cm 奥行 47cm
重量……32kg

アンプつきスピーカーボックス A-520G 発売

日立製作所からこのほどステレオレコード演奏用のアンプつきスピーカーボックス A-520G が発売された。

このセットは現在発売中の日立ステレオ電蓄PSG-520で，ステレオレコード演奏をきくときの右信号再生装置として使用するものである。セット内部には日立16センチハイファイスピーカー2個とアンプが組込まれており，使用真空管 12AV6, 30A5, 35W4 とそれに伴う回路構成，出力は PSG-520 とまったく同一の設計になっているため，もっとも理想的な立体音を手軽に楽しむことができる。

第16図
アンプつきスピーカーボックスA-520G

キャビネットは高級木製キャビネットにマホガニー塗装，前面サランネット張りの優美なデザインで外観，寸法も PSG-520 と同一の設計になっている。

またこのスピーカーボックスはアンプつきのためPSG-520以外のステレオ電蓄，あるいはレコードプレヤーにも組合わせることができ，美しいハイファイレコード演奏を楽しむことができる。

現金正価 11,000円，月賦正価 12,000円

編集後記

最近の自動周波数調整装置が遠方制御用搬送技術の進歩によって，数箇所の発電所を中央より協調制御する段階にまで発展してきたことは，まことに喜ばしい。巻頭「中国電力における中央制御ＡＦＣ」は，他社にさきがけて実施された4発電所の中央比例制御によるＡＦＣ営業運転の実績の紹介で，系統運営の自動化がますます高度化しつつあるとき，まことに貴重なデーターである。

◎

特急あさかぜ，さくら，こだまはいうまでもなく，各私鉄においても空気バネ台車が急速に採用され，その乗心地のよさが賞讃されている。これらの空気バネ台車は，軸バネにコイルバネ，枕バネに空気バネを採用した2自由度系の空気バネ台車であるが，一方，軸バネを使用しない1自由度系の空気バネ台車も着々と試作，研究が進められている。「空気バネ台車」は1自由度系の空気バネ台車による現地走行試験結果の詳細で，この種空気バネ台車の発展に寄与するところ少なくない文献である。

◎

炭砿坑内のわき水が金属に対し腐食性をもつため，坑内排水ポンプがはなはだしく被害をうける場合がある。「常磐炭砿坑内水による各種金属材料の腐食試験結果」は，腐食性をもつ坑内水に対するポンプ用金属材料の材質選定に資するところきわめて大なるものがある。

◎

一家一言欄には，ダイハツ工業株式会社小石社長より玉稿をいただくことができた。玉文は「緑陰に思う」と題され，平素の抱懐の一端を提唱されたもので，職場の環境衛生の改善が強く叫ばれている折，傾聴すべき至言である。ここに筆者に深甚の謝意を表する次第である。

日立評論 第41巻 第10号
昭和34年10月20日印刷 昭和34年10月25日発行
（毎月1回25日発行）
＜禁 無 断 転 載＞
定価 1部 100円（送料 12円）
© 1959 by Hitachi Hyoronsha

編集兼発行人 長谷川俊雄
印刷人 浅野浩
印刷所 株式会社日立印刷所
発行所 日立評論社
東京都千代田区丸ノ内1丁目4番地
電話 千代田 (27) 0111, 0211, 0311
振替口座 東京 71824番
取次店 株式会社オーム社書店
東京都千代田区神田錦町3丁目1番地
振替口座 東京 20018番

広告取扱店 広和堂 東京都中央区銀座西八ノ三小鍛治ビル五階一号 電話銀座 (57) 6836 番